

第 67 回 山口西田読書会

2015.2.28

前回（第 66 回）のプロトコル（萬納寺）

参加者 佐野教授 他 10 名

1. 前々回（第 65 回）の読書会 第 2 編、第 9 章「精神」の第 1-2 段落を読む。

いわゆる**自然現象**をば直接経験の本に立ち返ってみると、すべて主観的統一によって成立する**自己の意識現象**となる。

2. 植田氏の哲学的問い (2-9-1 注)

(我々が同一の石を見るという時、各人が同一の観念を有って居ると信じて居る。しかしその実は各人の性質経験に由って異なって居るのである。故に具体的実在は凡て主観的個人的であって、客観的実在という者はなくなる。客観的実存というのは**各人に共通なる抽象的概念**にすぎない。)

問い 1) **各人に共通なる抽象的概念**とは何か？

客観的実在が否定されている。 西田の立場か？

Prof. 主観的、実在的である。

唯物論ではないよとっている。(方便的説明)

唯心論的立脚地より見たのである。 その後の文と矛盾あり。

西田の立場でないので ちがう読み方をしなければならない。

(西田のストレートの意見ではない)

純粹経験を整理する上で主観、客観はない。 分化の過程で生ず。

小坂氏の 善の研究、483P にも触れている。

問い 2) 抽象的概念とは

客観的独立の世界に関連して 以下の部分を読んだ。

2-4-5 (ランプ)

問い 3) コミュニケーションは可能なのか？ 以下の部分を読んだ。

2-6-4 意識の根柢には普遍なるものがある———>相理会 相交通

3. 第 2 編 実在 第 9 章 精神 第 2-3 段落を読む。

衝突矛盾のある処に精神あり、精神のある処には矛盾衝突がある。

実在は一方において**無限の衝突**であるとともに、一方においてまた**無限の統一**である。

衝突は統一に欠くべからざる半面である。

精神には必ず苦悶がある、厭世論者が**世界は苦の世界である**というのは一面の**真理をふくんで居る**。

4. 問い

- a) 無限の衝突の際は 精神は苦悶があり
無限の統一の際は **平静な心の状態か** (安らいで、穏やかな状態) ?
- b) 座禅を極めた状態は、無限の統一の状態か？